

紀美野町立小川小学校

令和7年度 学校要覧

【めざす児童像】

- ◆ 健やかに安全な生活を送る子ども
- ◆ 意欲的に自ら学ぶ子ども
- ◆ 思いやりのある心豊かな子ども



1 学校教育目標

しっかり動き、じっくり学び、みんなで育つ

2 重点目標

○安全安心な生活態度の確立・体力の向上

- 基本的な生活態度や自己管理意識の定着
- 体力や運動能力の向上
- 危険回避能力の育成



○学ぶ意欲の醸成・確かな学力の定着

- 授業における研究の推進
- 複式指導・個別学習の充実
- 読書活動の定着 ○家庭学習の定着

○人間力や集団力の育成

- 自己肯定感や帰属意識の醸成 ○体験活動や交流学習の充実
- 道徳・人権活動の充実

○家庭や地域との連携

- 家庭や地域とのつながりと学校評価の活用
- 幼小中の連携の推進
- 地域との交流・地域の教育資源の活用推進

3 職員組織

職員構成	
校長	1・2年担任
教頭	3年生担任
養護教諭	5・6年担任
事務職員	なかよし担任
校務員	ぐんぐん担任
教育支援員	A L T
教育支援員	スクールカウンセラー
ICT支援員	図書館司書

児童在籍状況

数字は人数

学級		男子	女子	計	家庭数
複式	1年	2	2	4	1
	2年	1	0	1	1
3年		3	2	5	4
複式	5年	2	0	2	2
	6年	0	1	1	1
なかよし(知的)	2・4・6年	2	1	3	1
ぐんぐん(情緒)	1・4・6年	0	3	3	2
計		10	9	19	12

4 研究主題

「主体的、対話的な授業の充実」

～少人数・複式指導の環境を活かして～

- 研究課題：めざす児童像「おがわの子」

おもいを伝える子 =話し合い活動の充実

子どもたちが、自らの思いを豊かに表現し、考えを練り上げ、高まり合うため、話し合い活動を充実させる。

がんばる子

=複式指導の充実

全員が楽しく「わかる・できる」ような授業づくりを工夫して直接指導を充実させる。子どもたちが主体的に学習に取り組み、「子どもがつくっていく授業」に到達するため、間接指導を充実させる。

わかりあえる子

=個別学習の充実

1人学級の増加や個別の配慮の必要な児童の増加に対応して主体的に個別に対応した学習形態を探る。

5 学校沿革の概要

明治 6年 小川小学校を東福井字棟谷542番地に設立。同地小川八幡神社境内神宮寺をもって校舎とする。

昭和 22年 小川村立小川小学校と改称する。小川小学校育友会を発足する。

30年 野上町立小川小学校と改称する。

63年 吉野分校を閉校する。(開校より77年)

平成 3年 県・町指定生活科推進校研究発表会を開催する。

12年 文部科学省指定人権教育研究発表会を開催する。

18年 紀美野町立小川小学校と改称する。

(県)きのくに学びの創成支援事業研究発表会を開催する。(~19年)

20年 『和歌山発 3つのステップで読解力につける複式の国語科授業』を出版し、自主研究発表会を開催する。



21年 「全国複式国語授業研究会」を発足し、夏季研修会及び冬季授業研修会を開催する。

22年 「全国複式国語授業研究会」夏季研修会及び冬季授業研修会を開催する。

『複式発国語授業の教科書—これだけは知っておきたい国語授業づくりQ&A40』を出版。

23年 「授業のユニバーサルデザイン」和歌山支部として、夏季研修会及び冬季研修会を開催する。

25年 『学び合い』研究を始める。

令和 5年 創立150周年記念事業として、式典・講演会を行う。

平成29年度 学校要覧



「複式授業の充実（自主学習力の向上）」
自主研究校

【めざす子ども像】

- ◇ 健やかに安全な生活を送る子ども
- ◇ 意欲的に自ら学ぶ子ども
- ◇ 思いやりのある心豊かな子ども

1 教育目標

しっかり動き、じっくり学び、みんなで育つ

2 教育方針及び指導の重点

○安全安心な生活態度の確立・体力の向上

基本的な生活態度や自己管理意識の定着
体力や運動能力の向上

○学ぶ意欲の醸成・確かな学力の定着

児童理解や評価の工夫
授業や国語科における研究の充実

○人間力や集団力の育成・家庭や地域との連携

自己肯定感や帰属意識の醸成
体験活動や交流学習の充実
家庭や地域とのつながりと学校評価の活用

3 職員組織・児童在籍状況

職員構成	
校長	1年担任
教頭	2・3年担任
養護教諭	4・5年担任
事務職員	なかよし担任
教育支援員	教育支援員
校務（非常勤）	

※「なかよし」は特別支援学級（知的障害）

学級	男子	女子	計	家庭数
1年	0	1	1	0
2年	3	2	5	4
3年	2	2	4	3
4年	1	0	1	1
5年	2	0	2	2
なかよし（1年）	0	1	1	0
計	8	6	14	10



研究主題

「全員が参加する授業の工夫」 ～複式授業と『学び合い』の充実～

研究課題：目指す児童の学ぶ姿
「おがわの子」

おもいを伝える子 =話し合い活動の充実

- ・フリートーク活動の充実により培った聞く・話す力を国語科や他教科の授業の中でも活用し、読解力を育成する。

がんばる子 =直接指導・間接指導の充実

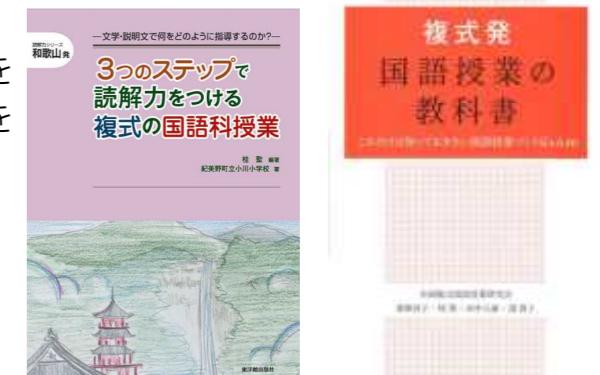
- ・学年に応じた目標を設定し教科係を育成する。
- ・ワークシート学習を発展させ、自分の思いや考えをまとめて書いたノートづくりの指導方法を研究する。
- ・全員が楽しく「わかる・できる」ような授業づくりの工夫について研究する。

わかりあえる子 =相互理解の深化

- ・教師が一人ひとりの子どもの見取りを大事にし、単元を学習する前と後の考え方の変容を把握する。
- ・特別な支援を必要とする児童についての実態把握をしておき、その子に応じた支援、手立てを計画して、授業を工夫する。

<小川プランによる国語科の読解力の育成>

- ・各学年の説明文・文学作品の読み方を3つのステップを設け整理し、全学年を見通した系統的な指導を行う。



5 学校経営方針

<信頼される学校>

1 開かれた学校運営・教育活動

- 学校からの積極的な情報発信
- 授業や学校行事の公開
- 学校評価の活用



2 家庭・地域との連携・交流活動

- 保護者や地域の人々からの学び
(ゲストティーチャー・共同学習)
- 地域の諸団体や関係機関、保・小・中・高校等とのつながり
- 小川子ども守り隊との連携

<「ことば」と「体験」を基盤とした3力の定着>

1 たくましい体力

- 基本的な生活習慣や規範意識の定着
- 毎朝の10分間トレーニング(持久走)・体育授業の充実
- きのくにチャレンジランニング・町マラソン大会への参加

2 確かな学力

- 朝の読書活動や基礎学習・家庭学習の充実
- 教科係を核とした自主学習力の向上
- フリートーク活動を活用した話し合う力の育成
- 全国学力・学習状況調査や県漢字博士検定試験の活用

3 人間力・集団力

- 『学び合い』による学力向上と一人も見捨てない集団の形成
- 自分や家族、友達や周りの人を大切にする心の育成
- 学級活動や児童会活動、たてわり班活動の充実
- 体験活動(米・野菜・花づくり、伝統文化、現代的課題)の充実
- 年齢や文化の異なる多様な人々との交流の促進

<教職員の組織力と自己研鑽>

1 職員のチームワーク

- 報告・連絡・相談の徹底と情報の共有化
- 個々の持ち味を生かしあえる集団づくり

2 児童の把握・支援

- 一人ひとりの長所を伸ばす取組と評価の工夫
- 体験活動をとおした感性や市民性の育成
- 保護者・地域の人々とのつながりの重視

3 授業・自主研究への努力

- 言語活動を重視した指導方法の工夫改善
- 意欲的・自主的に学習できる学級づくり
- 複式授業で読み解力を育てる研究の充実

6 学校沿革の概要

- 明治 6年 小川小学校を東福井字棟谷542番地に設立。同地小川八幡神社境内神宮寺をもって校舎とする。(本年度 開校141年目)
- 26年 小川尋常小学校と改称する。
- 38年 高等科を設立する。小川尋常高等小学校と改称する。
- 昭和 5年 梅中尋常小学校と合併し、小川尋常高等小学校と改称。校地を中田島に定める。
- 16年 小川国民学校と改称する。
- 22年 小川村立小川小学校と改称する。小川小学校育友会を発足する。
- 29年 完全給食を実施する。
- 30年 野上町立小川小学校と改称する。
- 31年 校歌を制定する。
- 40年 鉄筋校舎を竣工する。
- 47年 プールを竣工する。
- 50年 体育館を竣工する。創立百周年記念を行う。
- 59年 給食室を竣工する。
- 63年 吉野分校を閉校する。(開校より77年)
- 平成 3年 県・町指定生活科推進校研究発表会を開催する。
- 6年 多目的ホール、児童玄関、水洗トイレを竣工する。
- 12年 文部科学省指定人権教育研究発表会を開催する。
校舎大規模改造工事を竣工する。
- 16年 15・16年自主研究発表会を開催する。
- 17年 小川子ども守り隊を発足する。
- 18年 紀美野町立小川小学校と改称する。
(県)きのくに学びの創成支援事業研究発表会を開催する。
- 19年 (県)きのくに学びの創成支援事業研究発表会を開催する。
- 20年 複式授業における国語科の研究をまとめた本『和歌山発 3つのステップで読み解力をつける複式の国語科授業』を出版し、自主研究発表会を開催する。
- 21年 自主研究を継続するとともに、「全国複式国語授業研究会」を発足し、夏季研修会及び冬季授業研修会を開催する。
- 22年 自主研究を充実させ、「全国複式国語授業研究会」夏季研修会及び冬季授業研修会を開催し、同研究会より『複式発 国語授業の教科書—これだけは知っておきたい国語授業づくり Q&A 40』を出版する。
- 23年 自主研究を継続させながら「全員がわかる・できる」という点に視点をおき、「授業のユニバーサルデザイン」和歌山支部として、夏季研修会及び冬季研修会を開催する。
- 24年 多摩美術大学よりゲストティーチャーを招き「出前アート大学」を開催
- 25年 『学び合い』研究を始める。